Ⅳ，Ⅴ型が続発性8例で，胆摘の他胆管空腸吻合術，乳頭形成術が行われた．手術死亡例はなく全例社会復帰した．術中術後に全例内視鏡下砕石術が行われた．肝両葉に無数の結石を有した症例に，胆摘，総胆管切開の後，肝静脈の走行に注意して肝表面より結石を触知しながら後上行枝，内側下行枝，外側上行枝を切開し結石を除去する肝切開砕石術を施行した．症例によっては試みられるべき術式と考えている．

32．超音波映像下に無水エタノール注入療法を行った原発性肝癌の1例

鈴木　修一郎・伊藤　博
桐山　誠一・中村　潔
笠木　徳三・櫛渕　統一
阿部　要一・藤巻　雅夫
（富山医科薬科大学第二外科）

食道静脈瘤の術後 follow up 中，AFP の上昇をきっかけに肝癌と診断し，超音波映像下にアドリアマイシン・OK-432 を，その後，無水エタノールを腫瘍内に注入した．AFP は最高 796ng/ml より現在 84ng/ml まで下がり，又，超音波像も halo を有する hyperechoic lesion から isoechoic に近づき，腫瘍辺縁も不明瞭化した．

本治療法は容易でかつくり返し行なうことが出来，局所的にはこの効果を期待出来ると思われた．しかし，娘結節，門脈内腫瘍塞栓や被膜浸潤に対する効果，又，肝機能に及ぼす影響など問題点も多く，今後さらに検討が必要であると思われた．

33．新設医大開院1年5ヶ月間の手術実績と問題点

吉井　新平・松川哲之助
神谷喜八郎・橋本　良一
秋元　滋夫・大島　哲（山梨医大第二外科）
保坂　茂・上村　省治
上野　明

山梨医大第二外科では1983年10月12日開院以来17ヶ月間に191例に対し，249回の手術を行った．年令は生後5日（TAPVR）から95才（ASO）に及び，地域は県内（今の所県中・南部）からの患者が多いが，長野・静岡・神奈川・東京都等，近県からの紹介患者も少なくない．

疾患は胸部心臓血管系疾患が主体をなしているが，頭頸部，乳腺，食道，消化器，ヘルニア，外傷等一般外科領域を含め広範囲にわたっている．また入院患者の約20％が緊急入院であり，これらは自然気胸，胸部外傷および老人血管閉塞疾患であり，当県の老人比率の高さと従来のこれら疾患に対する対応の遅れが目立った．

今回，当科で行った手術の概要を供覧するとともに，手術患者を通してみた山梨県における新設医大の意義について考察する．

34．高カロリー輸液とビタミン

川合　千尋・松原　要一
丸山　明則・佐藤　信昭
真部　一彦・榊原　清
牧野　春彦・武藤　輝一
（新潟大学第一外科）

現在経中心静脈高カロリー輸液法（IVH）は経口摂取が不能，不十分あるいは不適当な患者の栄養管理法として各科領域で施行され著しい効果が認められている．IVH ではビタミンの投与も必須であるが従来すべてのビタミンが過不足なく含まれる製剤がなく，その投与が繁雑であった．

こうした現状で今回われわれは2種の IVH 用総合ビタミン剤（NK-041，MVI-12）を使用する機会を得たので，その使用経験を報告する．

結果：IVH 用総合ビタミン剤投与により IVH 施行中の血中ビタミン濃度はビタミン A，B12 を除きほぼ正常範囲内に維持された．A は低値であったが臨床的に欠乏症状はなく，B12 は高値であったが過剰症状はなかった．また副作用はなく投与に起因すると思われる一般臨床検査成績の悪化もなかった．投与法も簡便化され，細菌汚染，異物混入の機会も減少した．

35．我々が経験した多臓器不全（MOF）症例の検討

清水　武昭・長谷川　滋（信楽園病院外科）
大村　康夫・金子　一郎
吉田　奎介
（新潟大学第一外科）

消化器外科に関連する疾患で，急性腎不全に至った症例を，最近7年間に56例経験した．胆道感染症によるものが39例うち32例が多臓器不全（MOF）に移行し，死亡は11例28％であった．消化管損傷・縫合不全によるものが15例ですべて MOF に移行した．腸結核による MOF 症例が2例あった．胆道感染症のうち，閉塞性胆管炎による MOF は23例あったが，6臓器不全5例う